

(社)日本原子力学会 原子力教育・研究特別専門委員会

(社)日本技術士会 原子力・放射線部会 共催

「2008 年春の大会」の総合講演・報告

「原子力・放射線技術士制度の具体的活用に向けて」

1. 日時：平成 20 年 3 月 27 日（木）13:00～14:30

2. 場所：大阪大学 吹田キャンパス K 会場

3. プログラム：

「原子力・放射線技術士制度の具体的活用に向けて」〔一般公開〕

座長（エネルギー計画コンサルタント）宮沢龍雄

- (1) 原子力学会の人材育成と技術士制度活用支援 (九大) 工藤和彦
- (2) 日本技術士会原子力・放射線部会からの制度活用提言 (日立 GE) 林 克己
- (3) 原子力学会の継続研鑽（CPD）登録システムの運用開始について (東電) 垣田 浩一

4. 聴衆

約 30 名

5. 各講演概要

- (1) 原子力学会の人材育成と技術士制度活用支援 (九大) 工藤和彦
原子力・放射線部門の試験は 4 年目が終了して、第一次試験および第二次試験に多くの合格者を輩出し、21 部門の最後発部門であるにも拘らず、受験者、合格者数は全部門の中で中位を占めるまでになっている。本セッションでは原子力・放射線部門の試験が 5 年目の節目を迎えるにあたり、学会としての本制度活用の支援と、技術者継続研鑽（CPD：Continuing Professional Development）を通しての人材育成に関する活動について報告・提言を行う。
- (2) 日本技術士会原子力・放射線部会からの制度活用提言 (日立 GE) 林 克己
平成 16 年度に原子力・放射線部門の技術士試験が始まって 4 年目になる。3 月 7 日には平成 19 年度の技術士第二次試験の合格発表も出て、今年も難関突破された方が身近にもみえると思われる。この機会に技術士制度を知っていただき、また技術士制度が今後どのように使われるべきかを考えてみたい。
- (3) 原子力学会の継続研鑽（CPD）登録システムの運用開始について (東電) 垣田 浩一
学校を卒業し実社会で働く技術者の能力を維持、向上する継続研鑽（CPD）は、工学関係の学協会が等しくその重要性を認めている共通の課題である。日本原子力学会も、原子力教育・研究特別専門委員会において、社会的に影響と関心の大きな原子力技術を取り扱う学会であるとの認識の下、会員の CPD を促進する仕組みを検討して来た。

以上（栗原記）